

みの〜れスタイルを全国に広めよう



グラフィックデザイナー／コピーライター

みや べ こう じ
宮部浩司さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.183

みの〜れをすっぽり包み込む秋色に染まった大きな木々。はらはらと舞い降りる葉っぱは地面まで染めています。子どもたちは葉っぱのシャワーを浴びたり、カシヤカシヤと音を立てて歩いてみたり楽しんでいました。この森は春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の自然の恵みに感謝しています。今回は、みの〜れ誕生前から関わるデザイナー・コピーライターで東京都にお住まいの宮部浩司さん取材します。

日本一幸せな まち小美玉市

みの〜れが誕生した2002年11月に出版された「文化がみの〜れ物語」。

宮部さんがデザインを担当した表紙には、芝生広場を歩く人たちとみの〜れ、そして、まだ背が低い建物周辺の木々が写し出されています。

あれから20年…2022年11月3日、みの〜れ20歳の誕生日に行われたリレートークに出席するため、宮部さんは5年ぶりに東京から駆けつけてくれました。

「こんなに素晴らしい誕生会をよく演出したなどびっくりしました。リレートークの中で、自分がデザインした『文化がみの〜れ物語』が10倍ぐらい大きな舞台美術となった演出に、度肝を抜かれつつも嬉しかったです。みの〜れライブを実現している4

組のトークはもちろんのこと、美野里中吹奏楽部の演奏とトークが絡む演出が素晴らしい、演劇部の皆さんの未来への呼び掛けにもグツときて、時間が経つのを忘れてしまいました」と絶賛。

リレートークの冒頭では、「文化がみの〜れ物語」の始まりに書かれている、20年後のみの〜れが語る未来日記も披露されました。「まるで予言ですよ。この未来日記のとおりにもみの〜れが成長していることにも驚きました。実現してきた皆さん、本当にすごいです」。

みの〜れはいつも新しい、と宮部さん。20年前は若かった木々が成長して森になったように、常に成長を続けるたびに新たな刺激をもたらえる、と言います。「小美玉市は日本一幸せなまちですよ。やりたいことがあつて、一緒に実現しようとする仲間がいて、応援してくれる

まちの人たちがいる。自分の新たな一面を引き出してくれるみの〜れがある。何より、皆さんがいつも幸せそうですよね。フェイスブックでいつもうらやましく見えていますよ」と宮部さん。

宮部さん自身、みの〜れに関わったことで、対話しながら創り上げていく楽しさを学んだそうです。「楽しいと思うことを誰かと共有し、そのリアクションをまた取り入れて積み上げていく喜びをみの〜れから学びました。みの〜れがお手本になって、こうしたスタイルを全国に広めて欲しいです」と笑顔で話してくれました。

21歳にむけて歩き出したみの〜れ。ここまで、慣れない子育てにとまどうこともあったはず。でも、たくさんの人に支えられ、愛情をたっぷり注がれて成長したみの〜れを、改めて誇らしく思いました。

(藤田佐知子)